関西自然保護機構会報

No. 5

シンポジウム「近畿地方における自然破壊の進行とその指標生物の研究」
特集号　Part I

目　　次

論説

アンケートに用いることのできる環境指標生物……奥谷　禎一……1

アサガオ(スカーレットオハラ)を指標とするオキシダントの観察……矢部　　晨……7

オオムギによる大気汚染の検定……平井　篤造……19

自然保護ニュース

提言—大阪府下全域を銃猟禁止区域に！……酒井　　健……23

短報

自然観察指導員講習会を推進して……朝日　稔／秋元　宏……31

昭和55年度定時総会報告……33

1980 年 6 月

関 西 自 然 保 護 機 構

シ ン ポ ジ ウ ム

「近畿地方における自然破壊の進行とその指標生物の研究」

とき　1979年 10月 7日 (日)

ところ　大阪市立自然史博物館

「近畿地方における自然破壊の進行とその指標生物の研究」についていろんな材料、いろんなアプローチの方法をできるだけ堀りおこすことを目標にして、このようなシンポジウムを開催しました。

話題提供者

1．アンケートに用いることのできる環境指標生物　奥谷　禎一

2．高槻市芥川の魚相からみた経年変化　高槻公害問題研究会

3．野鳥とスズメの個体数比率による自然度の判定　有田　八郎

4．朝顔(スカーレット・オハラ)を指標とするオキシダントの観察　矢部　晨

5．オオムギによる大気汚染の検定　平井　篤造

6．ススキとセイタカアワダチソウによる秋季の自然度調査例　堀田　満

7．自然度と指標生物—タンポポの場合　堀田　満

上記よりNo.1.4.5を本号に掲載しました。